

# JIS X 0213パッケージについて

齋藤修三郎

平成16年3月7日

## 目次

① JIS X 0213 パッケージの使い方	I
①の① 基本的な利用方法	I
①の② スタイルオプション	I
①の③ 他のスタイルファイルとの併用	II
② マクロ	III
②の① 面区点番号よる呼び出し	III
②の② 異体字の呼び出し	III
②の③ 囲みつき文字	III
②の④ カウンタでの利用	IV

## はじめに

いままで  $\text{\TeX}$  において符号化文字集合を拡張するといふさまざまな試みがなされてきました。このパッケージは符号化文字集合 JIS X 0213 の文字種を直接扱いたいという要望に応えるために、INOUE Koichi<sup>1</sup>と Kino ちんと齋藤とのセッションにより生み出された物です。これにより、第三水準、第四水準の漢字などがソースファイルに直接記述する事が可能になります。対応している dvipaper は `dvips`, `dvipdfmx`, `Mxdvi` です。

### ① JIS X 0213 パッケージの使い方

この節ではスタイルファイルの使用方法を説明します。

#### ①の① 基本的な利用方法

JIS X 0213 に対応したエディタで  $\text{\TeX}$  のソースファイルを書きます。ソースファイルのエンローディングを `Shift JIS (JIS X 0213)` にして保存します。SJIS 版の  $\text{\TeX}$  のバイナリでコンパイルし、`dvips`, `dvipdfmx` などの dvipaper や処理系を `JIS X 0213` の文字 (第三水準、第四水準の漢字等) が扱えます。JIS X 0213 は 2004/2/20 に改正がありました。この改正による例示字形の変更をうけ、`jis2004.sty`, `jis2000.sty` に分けました。従来 of 字形で使用するには、`\usepackage{jis2000}` を適当な位置に記述します。今回の変更による字形を使用するには `\usepackage{jis2004}` を適当な位置に記述します。

#### ①の② スタイルオプション

オプションには、`bold`, `expert`, `deluxe` があります。まずは標語的にリストアップし、その後、それぞれを詳しく説明していきます。

`[bold]` 「太字で置き換える。」

`[expert]` 「組方向に應じた専用仮名を使う。」

`[deluxe]` 「多ウエイト化

それでは、それぞれのオプションについて説明していきます。

## ① JIS X 0213 パッケージの使い方

`bold` オプションは、ゴシック体 (`gt/m`) をフォントマップファイルで太字 (`gt/bx`) に割り当てられるものに置き換えます。

`expert` オプションを宣言すると仮名が縦組専用、または横組専用のものに切り替わります。  
`deluxe` オプションを宣言すると、明朝体、ゴシック体それぞれ 2 ウェイトが使用出来ます。つまり、`mc/m`, `mc/bx`, `gt/m`, `gt/bx` に別々のフォントを割り当てるようにします。(註

実際に使用しているファミリの名称は上記と異なっています。)

【注意】アスキーの標準クラスファイルでは見出しなどのフォントに `\bfseries` が指定されているだけです。処理結果で (太字の) ゴシックで表示されていたのは `mc/bx` が `gt/m` に代替されていたからです。同様の結果を得るためには `\bfseries` を `\gffamily\bfseries` に変更する必要があります。これを行うためのスタイルファイルが `redefont.sty` です。`deluxe` オプションを使用するときは、このスタイルファイルを読み込むとよいでしょう。(自動では読み込まれません。) `redefont.sty` のデフォルトでは、見出しが `gt/bx` に割り当てられているフォントになります。これを例えば `gt/m` にしたい場合、`\headfont` を書き換えることで可能です。プリアンブルで `\let\headfont=\gffamily` としてください。

### ①の⑥ 他のスタイルファイルとの併用

本パッケージではデフォルトの明朝体とゴシック体のフォントの定義を置き換えます。したがって、`\normalize` を再定義するようなスタイルファイルより前に読み込んでおく方が安全です。

齋藤が作成した OTEF パッケージもデフォルトの明朝体とゴシック体のフォントの定義を置き換えますので、本パッケージより前に読み込んで下さい。

マ

ク

②

## ② マクロー

### ②① 面区点番号による呼び出し

\MKT{men-ku-ten}で面区点番号で文字が呼び出されます。例えば\MKT{2-4-58}で圓が出力されます。これにより、2004/2/20の改正において追加された十文字の入力が可能になります。

### ②② 異体字の呼び出し

\jxVar{俱}とすると2004/2/20の改正において追加された十文字の入力が可能になります。予め定義されているのは「俱剥叱呑嘘妍屏并瘦繫」の十文字です。

### ②③ 囲みつき文字

囲みつき文字を容易に指定出来るようにするマクロです。 \jxMaru{33}などのように使用することで③のような表示が得られます。カウンタでの利用は後で述べます。

コマンド名	最小値	最大値	サンプル
\jxMaru	1	50	①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩
\jxKuroMaru	1	20	❶❷❸❹❺❻❼❽❾❿
\jxroman	1	12	i ii iii iv v vi vii viii ix x
\jxRoman	1	12	I II III IV V VI VII VIII IX X
\jxNijuMaru	1	10	①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩
\jxMarualph	1	26	a b c d e f g h i j
\jxMaruKata	1	20	ア イ ウ エ オ カ キ ク ケ コ
\jxMaruIroha	1	8	イ ロ ハ ニ ホ ヘ ト チ

## ②④ カウンタでの利用

②の③で説明した囲みつき文字のカウンタでの利用を説明します。カウンタで利用するた  
めのコマンドが`\jxLabel`です。既にお気づきかもしれませんが、このマニュアルでもノンブ  
ルやセクションの数字を変えています。これはプリアンブルで、

```
② マ ク ロ  
\newcommand{\thepage}{\jxLabel\jxRoman{page}}  
\newcommand{\thesection}{\jxLabel\jxMaru{section}}  
\newcommand{\thesubsection}{\thesection\jxLabel\jxKuroMaru{subsection}}
```

と再定義するようになって得られた結果です。このように、`\jxLabel`の後に囲みつき文字の  
コマンドを書き、その後引数としてカウンタ名を書きます。サンプルとして `enumerate`  
環境での使用例を載せます。

・ 設定例

```
\newcommand{\theenumi}{\jxLabel\jxMaru{enumi}}  
\newcommand{\theenumii}{\jxLabel\jxKuroMaru{enumii}}  
\newcommand{\theenumiii}{\jxLabel\jxNiJMaru{enumiii}}  
\newcommand{\theenumiv}{\jxLabel\jxMaruKata{enumiv}}  
\newcommand{\labelenumii}{\theenumii}  
\newcommand{\labelenumiii}{\theenumiii}  
\newcommand{\labelenumiv}{\theenumiv}  
\makeatletter  
\newcommand{\p@enumi}{\theenumi }  
\newcommand{\p@enumii}{\p@enumii\theenumi }  
\newcommand{\p@enumiii}{\p@enumiii\theenumii }  
\makeatother  
④ 福田恆存  
⑫ 私の國語教室  
⑦ 文庫本  
① 新潮文庫  
⑧ 中公文庫  
⑤ 文春文庫  
⑧ ハードカバー  
③ 新潮社  
④ 日本への遺言  
④ 内田百閒  
④ 森鷗外
```

項目を参照してみます。「④の⑫の⑦の⑧」のようになりました。